

元來、人間が遊んでばかり居られるものではない。現に今日でも金持で用事のない人々は皆な退屈して困つてゐる。随つて遊園に行つたり、玉突きをやつたり、菜園いぢりをしたり、謂ゆる道樂をこしらへて其日を送つてゐる。相當な時間、相當な手足の勞働をやる事は誰に取つても必要であり愉快である。只それを職業とするのは、今日では耻辱であり苦痛である。だから金持は道樂としてのみそれをやるのである。

金持ばかりではない。少し教育でも受けた者は皆な同じ手足の勞働を避けようとする。然しそれも小紳士まがひの面目を保ち、比較的短い時間、比較的樂な仕事をして生活しようとするに過ぎないので、若し相當な時間、相當な手足の勞働をして相當な報酬、相當な尊敬を受けなければ、決してそれを厭ふ筈はない。だから新社會に於いては、誰も短時間の手足の勞働を厭ふ者はなく、最も高尚な階級の勞働を厭ふ者も、然らざるで階級の手足の勞働をやるに相違ない。

五

又手足の勞働と腦髓の勞働とに論なく、優く事が正義となり名譽となれば、直接には可なり不愉快な仕事でも、又それが爲に多くの報酬が得られなくても、人は随分よく働くべき性情をも有してゐる。今日の社會では、一般に餘り多く不正不義不公平が行はれてゐるので、自分ばかり正直忠實に働くのは馬鹿々々しいと云ふ感じの先に立つ場合が多いが、それでも或種の人々の中には、或は社會の利益の爲に、或は自己の満足爲に、或は少數の知己の爲に、或は後世の批評の爲に、貧困侮辱、過勞等の苦痛を嘗め盡しながら、全く酬いられざる事業の爲に、孜孜汲々として努力してゐる者もある。甚だしきは身命を擯つて悔いざる者すらある。

それを考へるに、將來の新社會で、萬事に公平が行はれ、人が皆な融和親睦し